



# 「正々堂々、最後まであきらめない、笑顔が一番筑後小」



1年 だるまのさんぽ



2年 メラ!



3年 GOGOハリケーン



4年 心をつないで全カリレー



5年 筑後フィルム65～新時代へ～



6年 静と動! 組体ソーラン

10月15日(土)雲一つない真っ青な秋晴れのもと、筑後小学校の運動会を行いました。昨年度は、前半2・3・5年、後半1・4・6年の2部制でしたが、今年度は、3年ぶりに全校で一斉開催することができました。夏を思わせるような暑さの中でしたが、子どもたちは、それ以上の熱い姿を見せてくれました。今年のスローガンのごとく、優勝目指し、正々堂々と、最後まで自分のブロックの勝利を願って競技している姿、笑顔で、そして力強く、美しく表現している姿を見せてくれました。演技後のやりきった笑顔は、練習から運動会当日まで全力で頑張ってきた証だと感じました。

保護者の皆様には、テントもない大変暑い中、そしてコロナ禍での参観制限の中、最後まで子どもたちへの温かい声援を送っていただき大変ありがとうございました。

## 私の運動会ベストショット2



6年生の姿を見つめる下級生

これは、運動会前日に6年生の表現「よさこいソーラン」の踊りの練習を見ている下級生の様子です。運動会本番がもちろんベストショット1ですが、私は、この写真がベストショット2だと思いました。それは、下級生の子どもたちが、力強く、迫力のある踊りをする6年生の姿をしっかりと見つめていたからです。中には、6年生の踊りを見ながら自分も踊り始める子どももいました。

私の目には、下級生の子どもたちが、6年生の姿に憧れ、6年生の子どもたちが、下級生の視線に最上級生である誇りを感じているように映りました。

子どもたちが成長していくためには、自分の未来の指針となる憧れる存在が必要です。下級生の子どもたちは、6年生の姿を通して、自分が6年生になった時の在り方を学んでいたと思います。

そう考えると子どもたちは、大人である私たちの姿を自分の未来の姿として見ているかもしれません。私自身、大人としてどうあるべきか、問われているように感じました。

### 【校長のつぶやき】「運動会後の一本の電話」

運動会終了後、一本の電話が、学校にかかってきました。電話の主は、毎朝子どもたちの登校の見守りをしていた方からでした。「今日の朝、いつものように見守りで立っていたら、登校してきた子どもたちから『今日の運動会は、見にくるんでしょう?運動会くらい見に来て下さい』と声をかけられました。思わず目頭が熱くなりました。筑後小の子どもたちは、よく育っていると思います。」という内容でした。私は、この電話の話聞いて、子どもたちが、毎朝、自分たちの登校を見守ってもらっている方に対して愛着をもってくれていることをとても嬉しく思いました。そして、人との関わりを大切にできる子どもたちにしていけないと感じました。